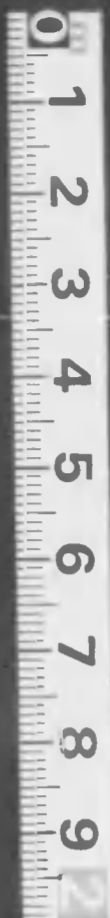


週寫眞
報

編輯部報情閣内
七十・號六廿百第・日四廿月七

佛印第一報





眞部報情間内山内 影攝

丸の日にすれ忘に中の物荷くゆて持は百餘視監境國
うとれはまからかのもろな靴にに意決のそ た人入を

得勇 發出を部本産造派すけに警風
行 日自除視監がわら向に視監境國

二十日からは極めて廣範圍に亘る物資の輸送を禁絶することとなり、かつ日本側から現地調査員を派遣すること、異議なき旨の回答を書らしめた。

よつてわが方は陸海外の三省から佛印における援護物資の輸送状況監視のため現地に派遣する監視員として陸軍側は西原少将を、海軍側は柳澤大佐を、それぞれ委員長に、外務省からは山村元ハノイ總領事その他数名からなる監視員を佛印に派遣した。

わが佛印監視員の西原少将はじめ各委員は飛行機で六月二十九日ハノイ着ととも佛印總督カトルー將軍と第一回の會談を皮切りに、その



東亞新秩序の建設をめざして、支那事變を戦ひつゝあるわが國にとつて、これに敵性を示す援護行為は何國といはず断乎これを排撃しなげればならぬ。

支那事變が勃發してからフランスが英國とともにわが國に對して敵性を發擇したことは明白であるが、佛領印度支那はその重要據點であつた。そこで佛印の敵性を一掃するたりに帝國政府はアンリ駐日フランス大使を通じてフランス政府に嚴重な抗議を申込んだ。その結果、佛印の對支物資輸送につきフランス側は既に十七日から、ガソリン及びトラック等の對支輸送を禁止してきたが、わが政府から再度の申出もあり

とうとする氣運が見られる。

七月十三日カトルー總督は「佛印對外貿易情勢の現在と將來」と題して長文の意見書を發表し、重要産物について佛印は本國に代り、日本に販路を得、農産物の對日輸出は最近相當に増加してきて、佛印の經濟危機は日本が救つたといへるとする。更に日本は石炭、鐵礦、鹽等のとき顧客で將來ゴム、亞鉛、錫等も大いに對日輸出の可能性があり、日本から綿糸布、生糸、人絹、陶磁器、化學製品等が輸入されれば佛印と日本との經濟關係は益々緊密とならうと述べてゐる程である。



滿洲鐵道唱歌

一、大陸の朝ぼらけ
二、大連の朝ぼらけ
三、奉天の朝ぼらけ
四、長春の朝ぼらけ
五、哈爾濱の朝ぼらけ
六、松花江の朝ぼらけ
七、嫩江の朝ぼらけ
八、洮兒河的朝ぼらけ
九、松嫩平原の朝ぼらけ
十、大連灣の朝ぼらけ
十一、旅順口の朝ぼらけ
十二、遼東半島の朝ぼらけ
十三、渤海湾の朝ぼらけ
十四、天津の朝ぼらけ
十五、北京の朝ぼらけ
十六、大連の朝ぼらけ
十七、奉天の朝ぼらけ
十八、長春の朝ぼらけ
十九、哈爾濱の朝ぼらけ
二十、松花江の朝ぼらけ

滿鐵鐵道總局

佛印監視員隨行第一報

わが監視員派遣團本部



わが監視員派遣團本部を警戒する安南兵



各派遣委員との間や本團の聯絡通信に忙しい派遣團本部の中島通信班



派遣團本部の通信班は電報發受信に大奮



緊張する監視隊員本部

ハイフオンのわが海軍監視場(豪拓事務所)で佛人聯絡將校と會見する柳澤海軍大佐(寫眞向つて左から二人目柳澤海軍大佐、一人おして佛人聯絡將校)



佛印著陸第一歩



内山林之助手記

佛印著陸ルート遮断の重い使命を兩翼に擔つて去る七月三日、朝霧立ちこめる臺北飛行場を飛び立つたわれ、大本營監視隊員の搭乗機は三機編隊の機首も力強く颯風を孕んで荒れ狂ふ臺灣海峡を一気に、大陸の海岸線に沿つて一眺ひハノイへへと南下したのである。刻々昇る機内の寒暖計につれて意外の景色も刻一刻とその相貌を變へてゆく。いつしか海岸線を離れ大機は一望千里紺碧の海原に出た。頭上には白熱の太陽が燃々と青空に輝いて赤道近きを思はせる。聞けば機は既に海南島を通過して東京灣にさしかかつてゐる由、ハノイももう直ぐだと思ふ間もなく機はソノコイ河口に近い佛印の地に兩翼の影を落したのである。

機上から始めて見る佛印の土地——それは東京米の産地として有名な東京平野——目にとどく限り青々とした水田だったのである。この廣漠たる平野を紅く縫つて流れる大河はその名も紅きソノコイ河(ソノコイとは上語で紅の意)だ。機はグン／＼高度を下げる。緑の城、赤瓦に白壁の家。お、見える、茫然と水田に突立つたまゝ、われらの機を見上げる農夫の姿、家々からは先を争つて子供も飛び出して来る。機嗣にクツキリ描かれて日の丸を見て彼らは何と感じたらうか……

フトこんな感慨が胸裡をかすめた次の瞬間には機はフア／＼と二三度軽いショックを受けてハノイ飛行場に着いて了つた。時計を見ると午後四時二十八分。なんと早い空の旅。

機體を出ると鈴木總領事始め在留邦人多數がわれ／＼を迎へてそこに感激の握手が交されてゐる。僕らはなにかしら眼頭にチツと熱いもの、流れ出るのを察せられなかつた。

かくして安南兵のオドけた接銃の間を縫つてわれ／＼は宿舎に當てられた佛印第一のメトロポールホテルの一室にコンバッチばかりの手厚い歓迎を受けつ、ハノイ第一夜を迎へたのであつた。

ハノイに着いてからの監視隊諸氏の涙ぐましい活躍については既に内地の新聞紙にも掲載されてゐること、思ふからこゝでは割愛し、以下ハノイ印象記をいさゝかペンに托すことにする。

先づ第一に驚いたことはハノイの暑さだ。この暑さは到底内地では想像出来ない。太陽が白く輝いて、凡ての景色が白く光つてゐる、直射日光は骨を射すほど痛い。こゝで始めて僕はヘルメットの効用を知つた。ヘルメットなしではとても日中の路上を歩けないのだ。汗はそれほど流れない、といふのは出るだけ出て了ふと後には補給する水が内地のやうに飲めないからだ、水が悪いのだ、安南人のあの生気のないシナびた姿、宜べなる哉だ。



ハノイ風物詩



1 路上にバイナップルを賣る安南の女、安南の女は昔の日本婦人のやうに凡てオハグロで齒を染め、翠染の衣のやうなベニガラ染の着物をきてゐる。
 2 ハノイの市中にアチラクといふ池がある、地中には支那風の古塔があり、周囲が公園になつてゐて、夏の夕など青年男女の楽しい散策場となつてゐる。
 3 緑のオアシス、美しい並木道、こゝは随行者團の宿所マートルボウルホテル

東洋一の華麗を誇る白壁のハノイオペラ劇場は灼熱の陽に照り返り屋外はわねの想像もつかない灼けつくやうな暑さだ

アチラク池畔の花賣店、可憐な少女が毎朝早くから朝露にぬれる美事な蓮の花を運ぶ市井に賣つてゐる

佛印監視員隨行第一報

佛印問題勃發の當初土地の機關新聞が「日本」の侵略的野心などいふ記事を掲げ、大いに安南人の反目的氣分を煽らうとしたところ、結果は豫想に反して却つて安南人の憤激を買つてたゞ「當初の計畫を中止するのやむなきに至つたといふ」
 安南人の日本にかけた希望はこのやうに大きくそれたけ日本人に對する憧憬は今や大きな民族的感情にまで進展しつゝあるといはれる。東亞新秩序の黎明は今や赤道近い佛印にまでその光芒を投げかけつゝある時、この感情は益がて大きな實を結ぶ秋が来るであらうことを東洋平和のために祈願して第一報としよう

次に發したのは官衙も商店も凡ゆる街頭の機能午前十一時から午後三時まで停止してしまふことだ。商店は露戸を、住宅は雨戸を、深く閉ざして一齊に晝寝してしまふのである
 ハノイに於いた當座三日はそれと知りすかメラ片手に一人ハリ切つて街を飛び歩いたが、晝前後になるとスウツと人影が消えてしまふ。郵便局に電報を打ちに行つても戸が閉つてゐて駄目、買物も駄目、たゞ開いてゐるのはレストランのみだ。不思議に思つてホテルのボーイに尋ねて見た結果がこの晝寝なのである。聞けば晝寝といつても日本のそれと違ひ、着物を着かへて本格的に睡眠をとるのださうだ
 ハノイに滞在既に旬日餘、この頃では僕も晝寝しないとなんとなく物足りないといふよりこゝでは晝寝は生理的に絶対に必要なのだらうとさへ思へてきた。不思議なものだ
 次に驚いたのは安南人の顔が非常に日本人と近似してゐることだ。米のことを安南語でコムといふやうだがこの邊にもなにかしら遠い昔の血のつながりが感じられ、たゞでさへ日本人を見るときさうに近寄つてくる安南市民に僕らはなにかしら親しみを感ずることである

イタリアの婦人

相葉 宣

これら七十年を振り返ると、イタリアの婦人は、
 立派なものである。彼女らは、
 有能、誠実、勤労、愛国、
 勇敢、そして、
 美しい。彼女らは、
 家庭の中心であり、
 社会の中心である。
 イタリアの婦人は、
 世界に誇れる存在である。



この頃の婦人にも、二口にいはいは女
 は天使が翼である」とイタリアの
 詩人がいふように、共通したものが
 ある。それは、
 愛国心、
 誠実さ、
 勤労心、
 勇敢さ、
 そして、
 美しさである。

北は地中海、南はアドリア海の
 間に、
 イタリアの婦人は、
 長い歴史を
 刻みつけてきた。
 彼女らは、
 文化の
 発展に
 貢献した。



この美しい婦人たちは、
 愛国心と
 誠実さを
 誇りに
 思っている。
 彼女らは、
 社会の
 発展を
 目指している。

今日のイタリアは、
 要求する婦人と
 なる。彼女らは、
 教育、
 社会事業、
 文化の
 発展に
 貢献している。

次代國民の育て方(十四)

醫學博士 竹内茂代

牛乳の量と育て方

牛乳を育てる場合に母乳のやうに
 小児の飲たけは、
 足のないやうに
 小児の飲たけは、
 足のないやうに
 小児の飲たけは、
 足のないやうに

母乳の量は、
 小児の生活と
 育つに
 必要な
 温度から
 割りだして
 定まる。

生後	哺乳量 (g)
1日	100
2日	150
3日	200
4日	250
5日	300
6日	350
7日	400
8日	450
9日	500
10日	550
11日	600
12日	650
13日	700
14日	750
15日	800
16日	850
17日	900
18日	950
19日	1000

母乳の量は、
 小児の生活と
 育つに
 必要な
 温度から
 割りだして
 定まる。



牛乳の量と育て方
 小児の飲たけは、
 足のないやうに
 小児の飲たけは、
 足のないやうに
 小児の飲たけは、
 足のないやうに

母乳の量は、
 小児の生活と
 育つに
 必要な
 温度から
 割りだして
 定まる。

女教師の記録

平野 婦美子 著 定價 二〇〇円

文部省推薦 教育の當事者のみならず、
 家庭の教育の連絡を認識して
 かねばならない母親達にとって
 適の書として推薦する(文部省)

西村 啓一
 村松 大六
 西村 啓一
 村松 大六

心のこ腕のこ夏のこ

東京労働紹介所



上 紹介所には毎日四、五十名の学生が登録におしよけてくる。彼等の一人にも真剣に時局に生きよとす決意が燃えてゐる。中、今日も朝から日射は強い。しかし、背嚢をとび出し、きりと脚絆を巻けば、新しい氣力が自づと體内に湧いてくる。今日も一日働き抜くぞ。

下 登録を中込んだ学生に交付される労働券

東京の大学専門学校の学生數百名は、この夏休みに、毎日自らすすんで労働登録をし、東京労働紹介所の窓口で一般労働者と同じやうに「君は〇〇工事現場、あなたは陸軍××廠」とその日の職場、いや、学生にとっては汗の鍛錬道場の「行き先きカード」をもらうて懸命に働らいてゐる。昔は夏休みを寝て暮した学生もあつた。今日の学生は炎天下に馴れぬスコップを握りトロッコを押し、生白い身を直接労働に投じて、働らくことの尊さと、若い筋體の鍛錬と、僅かの間でも世の中の手足を自分達の腕で助ける喜びとを味はつてゐる。

無、無論、労働力は一般労働者に及ばないが、頭腦の働きは豫想以上のものがあり、災害を未然に防いで表裏された学生もある。

勤務に従事しようとする学生は先づ學生課の手を通し、東京労働紹介所で登録申込書に所要事項を記入して登録を中込む。登録の了んだ学生は労働券をもらひ前日の夕方、就労先を紹介されて一日勤務するとまた紹介所に歸り、その日の賃金の支拂を受けその時また明日の就労先を紹介される仕組みになつてゐる。

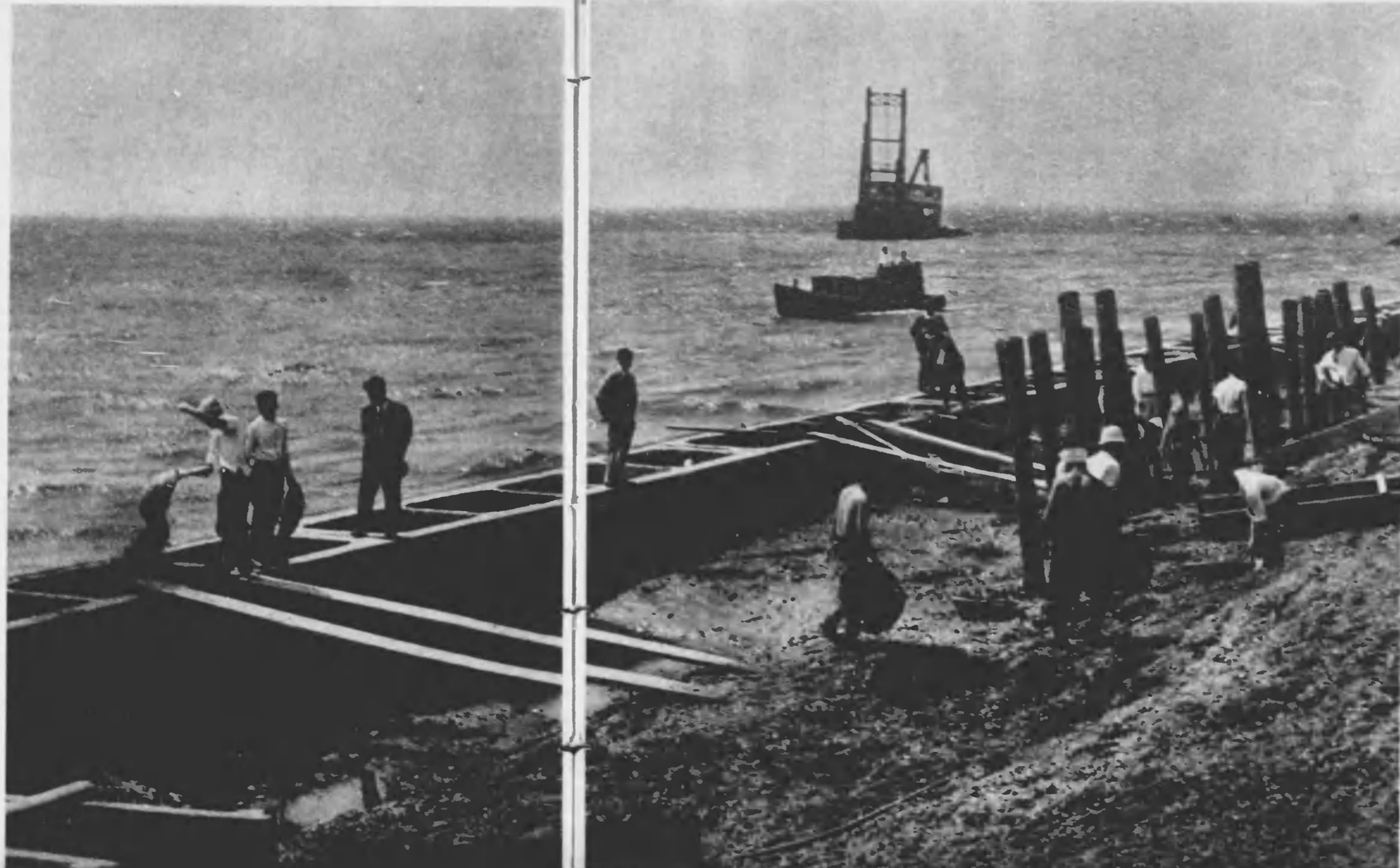
炎天に玉なす汗をぬぐひながら黙々と働いてゐる日焦けた学生の姿には、時局に協力して再出發ししうとする力強い意欲が見られる。

京濱運河の二號埋立地には四十名に近い學生が一面となつて建設工事にたづさはつてゐる。愛徳も早稲田も仲好く手を携へて働らいてゐる。

さき飯だ。うまいもまづいもない。空ききつた腹には手辨當も山海の珍味に優る、働く者の喜びがふつ／＼と感じられるのだ。



二人協力でケイソンの中埋立作業、繰り返してゐるうちに二人の氣が合つてバイスケ(俵)から砂礫は氣持よくバイされる。





入道雲の端から強烈な陽がきらついて、彼れてくると目がくらむやうな熱風が海からあはつてふき渡る、尤がトロワコを押す学生たちはたゞ力一杯、腕を突つぱり、脚をふんばる



今日一日、血と汗との結晶です！この尊い報酬を酒や享樂になぞ、とても勿體なくて消費は出来ませんと、彼等はしみ／＼語るのである

心を練る女生徒

心を静めて面壁の禪

食事かすむと合掌して心からなる感謝の禱りを捧げる

長廊下すれちがふ僧衣の人には自づと敬虔の心が湧いて會稽の頭が下る



東京音楽学校の女生徒約二百名は三班に分れて七月十日から十三日まで神奈川縣鶴見にある總持寺で淺野軍頭老師指導の下に禪の修業を積んだ。先づその日の午後四時までに總持寺に集合した一班約六十名の女生徒は、直ちに沐浴場で脂粉を洗ひ落して清らかな童女にかへり、午後五時、さゝやかな精進料理に夕食が終ると、師に對する心構へ、單(禪)をくむ(慕)の上り方、足のくみ方等師の豫備講話があつたのち、同七時いよ／＼禪室に入つて靜坐一時間の禪の修業

百八の昏鐘が夕闇に響々と流れてゆくとその余韻に乗つて虫の聲が僧堂を包むやうに湧いてくる、僧堂は空寂に靜まりかへつて、大きな花模様振袖に紺の袴、お河童頭の俄か雲水は足のしびれをもとせす煩悩を絶つて冥想にふけつたのである

同夜はこゝに一泊、翌朝未明に再び坐禪を行つて、常日頃西洋流の音楽の世界に浸頭してゐた生徒たちも、この日はかりは空室々々の禪の世界にひたつて時局に處する力強い氣構へを養つた

東京週報社
東京本町三丁目

胃腸に



米食國民の胃腸保護に
ビタミンB複合體の大量補給が叫ばれます

この栄養素は白い米飯を完全に燃焼同化して真に精力化する觸媒であり、胃腸を丈夫にして食欲、消化、便通を正常に保ち、更に脚氣を防ぐ作用があるからです。米にも天然にはB複合體が含まれて居りますが、精白したり、水で洗いだり、熱を加へたりして取り除くため、白い米飯にはこの栄養素が甚だ不足するのです。

B複合體はB₁、B₂、B₆など多種多様の要素から構成され、それらが相寄り相助けて綜合効果を發揮する點に、B₁とかB₂とかだけの單一劑と異なる優越性があるのです。

エビオス錠はこの貴重なビタミンB₁、B₂、B₆などの各要素を揃へて抱有する真正酵母劑です。米食國民に多いB缺乏症—胃腸無力、脚氣、四肢倦怠、脆弱體質等の矯正に賞用されて居ります。

エビオス錠

一三〇〇錠：一圓六十錢
一〇〇〇錠：四圓八十錢

大日本麥酒株式會社
東京・大阪・田邊商店

内閣印刷局印刷發行